

学校概要

創立 41 周年	学校長 長尾 晴美	副校長 藤本 尚子	学期 2 学期制	児童・生徒数 546 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 2		主な関係校: みたけ台中学校 鉄小学校		

学校教育目標

健やかな心と体 夢に向かって地域と学ぶ みたけの子
 【知】学習の基盤的能力を身につけ、夢や目標に向けて努力を続ける子を育てます。
 【徳】友達のよさを認め合い、かけがえのない存在として尊重し行動できる子を育てます。
 【体】自分や他者の生命を尊び、自らも健康な心と体をつくろうとする子を育てます。
 【公】体験・交流活動を通して、地域とかかわり貢献しようとする子を育てます。
 【開】広く社会や世界を見渡し、様々な人と進んで交流しようとする子を育てます。

学校の特色

- 地域が協力的で田んぼでの米作りをはじめ、総合的な学習や生活科の材に恵まれている。
- 異学年交流を児童の人間関係づくりに位置づけ、ペア学年を基本にしたたてわり活動が盛んである。
- 学校行事、学年行事に熱心に取り組んでいる。
- 学区にある今年度開所の新児童養護施設と新たな連携を図っていく。
- 平成28年度に創立40周年を迎え、学校と地域とのつながりを更に充実させていく。

学校経営中期取組目標

○「プラス思考」「チームワークとコミュニケーション」を大切に、子どもが安心して豊かに生活できる学校にします。
 ・一人ひとりが課題を見つけ、主体的に活動できるような授業づくり、体験学習を实践し、伝え合う力、問題解決の力を向上させます。
 ・自尊感情を育む環境づくり、居場所づくりを推進し、児童の規範意識、人権尊重の意識の向上を図ります。
 ・健康な心と体をつくるための生活習慣を意識できるようにします。
 ・教職員自ら児童、保護者、地域との信頼関係を築き、人とかかわり、地域とかかわりを大切にする学校にします。

小中一貫教育の取組

みたけ台中	ブロック	: みたけ台中 鉄小
9年間で育てる子ども像	○人とかかわりの中でよさを認め合い、目標に向けて主体的に努力する子ども	
自校の具体的取組	・小中相互の授業参観、各教科・領域での研修会、教育課程の報告会を通して、指導計画・指導方法・評価等の改善を図り、小中一貫教育の運用、改善に生かす。学力・学習状況調査の結果分析をブロックで行い、「9年間で育てる子ども像」の見直しを行う。・オープンスクールでの部活動体験、中学生生徒会の小学校訪問等を通して児童生徒の交流を深め、中学校生活への見通しがもてるようにする。・小中一貫型カウンセラーの配置による情報の共有、児童生徒理解を推進する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎・基本の定着、学んだ事を活用して課題を解決する力、思考・判断・表現力、主体的に取り組む態度を育成する。身につけた力を明確にした学習指導を推進する。	①朝学習の時間の活用や、個に応じた指導、学習形態の工夫により、基礎基本の定着を図る。②問題解決的、体験的な学習を通して、これからの社会の変化に対応できる力の育成を図ると共に、身に付けさせたい力を明確にし、子どもの学習意欲や伝え合う力の伸長を図る。③学力向上アクションプランに基づき、児童の実態を掴み、授業改善に努める。
豊かな心	人とかかわりを通し、自己肯定感、自尊感情の育成を図る。児童の主体的な活動を大切に、児童一人一人が所属感をもてるようにする。	①日々の学校生活、体験活動、行事を通して自分や友だちのよさを進んで見つけ、規範意識、社会参画意識を育てる。②年間を通じて全クラスが一回以上道徳の授業参観を行う。③たてわり異学年交流を計画的に実践し、好ましい人間関係づくりを推進する。④人権週間、福祉体験活動を通して、相手の思いを想像し、人権を尊重する心を育成する。
健やかな体	健康に関する意識を高め、運動に親しみ、自他の命を大切に、教育活動全体を通して健やかな体をつくり、よりよい生活習慣づくりへの意識を高める。	①健康安全に関する意識の向上を図ると共に、教室環境の整備や清掃指導を通し、事故やけがの予防に努める。②生活意識調査や体力テスト結果等を生かし、自己の体力を知り、進んで運動に親しめるようにする。③学校保健委員会の取組を日常の教育活動の中に生かすことで、健康な心と体についての意識が高められるようにする。
児童指導	児童の温かい人間関係づくり、安心できる居場所づくりに向けて、未然防止を第一にし、組織的に児童理解、児童指導を推進する。	①「気持ちよいあいさつ、あたたかい言葉」をベースにして、児童との信頼関係づくりを推進する。②生活アンケートを複数回実施し、課題の未然防止を第一に、いじめ等問題行動の早期発見、早期対応に心がけ、学校いじめ防止基本方針に基づいた組織的な取組を図る。③計画的に児童理解研修を行い、教育相談体制の充実を図る。
特別支援教育	校内委員会を設置し、特別支援教育推進のための校内支援体制を整え、関係機関との連携を図る。	①板書、掲示物の工夫等誰にでもわかりやすい(ユニバーサルデザイン)授業に心がける。②基礎的な環境整備と合理的配慮について理解を進め、特別支援教育を組織的に推進し、個に寄り添った指導と授業形態や環境の工夫をする。③個別支援学級への理解と共生に向けて、教職員が連携する。
地域連携	地域の中の学校という意識のもと、地域のひとと児童とのつながりを大切にする。	①地域コーディネーターと連携し「みたけ夢教育応援団」「地域協力者」とのつながりを大切に、地域理解を深める。②H28年度の創立40周年記念行事での取組を基盤に、各学年の地域とかかわる学習活動を年間を通して継続的に行い、地域に支えられている意識や感謝の気持ちを育てる。③年2回学校づくり懇話会を開催し課題の共有や学校評価を行う。
いじめへの対応	児童一人ひとりへの適切な支援を図ると共に組織的な情報共有や対応に努める。保護者とのコミュニケーションの機会を通し、信頼関係を築く。	①児童の行動の背景にある思いをとらえる感性を磨く研修を実施し、児童理解を促進する。②児童支援専任を中心とした組織的な情報共有、スクールカウンセラーをはじめ関係機関との連携を積極的に図る。③学校と保護者は児童の成長を支えるパートナーであることの基本認識に立ち、協力関係を構築する。
人材育成・組織運営	研修を年間計画に位置づけ、教職員の専門性、指導力の向上に努める。全教職員が組織的に学校運営に参画する。	①チームとしての研修目標や課題を明確にし、キャリアステージ毎の育成指標を意識した自己の資質・能力の向上を目指す。②主幹会、学年主任会を中心にして、学校運営上の課題を調整改善できるようにし、組織的な実践力、危機管理能力の育成を図る。